

瑞岩寺報

2011.08.01
(平成23年 葉月)

【お盆号】

お盆総合案内

お盆法要

今年のお盆法要は左記の通り行なわれます。

昨年とは時間が異なります。ご注意ください。

【期 日】8月7日(日)

【時 間】午後4時～

【お盆の供養料】

◎先祖供養塔婆 5,000円

◎新盆供養塔婆 10,000円

【内 容】檀信徒すべての精霊のお盆法要をします。

◎新盆塔婆供養

◎先祖塔婆供養

◎『般若心経』

◎御詠歌

法要後、お塔婆をお持ち帰りください。

粗品がございますので出欠席のハガキを返信ください。

お盆棚経参り

【期 日】8月8日(月)～8月16日(火)

昨年より始めました各家へのお盆のお参りはお盆法要終了後から開始しま

お盆参り予定日程 ※多少変更される場合もあります	
7月13日(水)～17日(日)	東京・神奈川・埼玉南部
8月8日(月)	太田市外(群馬県外・前橋・館林地区)
8月9日(火)	太田市外(足利・桐生地区)
8月10日(水)	太田市内(太田地区)
8月11日(木)	萩原地区、その他
8月12日(金)	七日市、落内、唐沢地区
8月13日(土)	丸山、清水、反丸地区
8月14日(日)	矢田堀地区
8月15日(月)	矢田堀地区
8月16日(火)	(予備日)

【時間】〈早朝〉6:00～9:00／〈午前〉9:00～12:00／〈午後〉12:00～15:00／〈夕方〉15:00～18:00

す。副住職が早朝から夜まで約320軒の檀家さんを回りお棚経をあげます。どうしても都合の悪い場合は都合のよい日を返信ください。短い時間ですが、ご家族と一緒に参りをお願い申し上げます。

お墓そうじ

【日時】7月31日(日) 午前6時頃から

お盆が近づいてきました。お墓のお掃除をしましょう。お盆前の一斉お墓掃除を右記のごとく行ないます。たまには早起きしてお墓掃除も気持ちいいものです。お子さんやお孫さんといっしょにどうぞ。

◆強制ではありません。この日この時間でないといけないということではありません。◆自分のお墓の掃除が終わったら通路など共有の場所のお掃除も積極的にお願いします。◆遠方の方はお寺でやっておきますのでご安心を。◆飲み物の用意、あります。

Attention!!

以下の点にご留意ください。

【お盆法要について】

◎お盆供養塔婆について、「必要」、「不要」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」の場合はお盆法要に「出席」・「欠席」を返信ハガキに記入してください。

◎「必要」で「欠席」の場合は、必ず8月7日以降に塔婆を受け取りに出してください。

塔婆供養料の振込みを同封します。毛里田地域の方は世話人さんにお渡しください。

塔婆を受けられる方は風呂敷などを、ご持参ください。

【市内・県内外の檀信徒の方に】

市内・県内外の方は同封の振込用紙

をお使いくください。

県外の方でお塔婆をお供えできない方は瑞岩寺でお墓にお供えいたします。ご一報ください。

【お盆参りについて】

◎お盆参りについて「必要」・「不要」をハガキに記入してください。

◎「必要」と記入されたお宅には、8月初めにお参りします。

◎「不要」ならば「返信なし」の場合はお参りには伺いません。

「必要」だけ日時が合わない場合は、希望日をお書きください。調整いたします。

返信期日までに必ずお送りください。その結果により順番を決めお参りします。

返信葉書は7月31日必着です。

【永代供養墓・水子供養墓関係者の方へ】

永代供養墓または水子供養墓にお入りになっている方については、瑞岩寺で責任をもってお盆の供養をしておりますが、個別でのお塔婆を希望される方はお申込みください。供養料は前項にある通りです。

【ペット供養墓関係者の方へ】

ペットの合同供養は左記の通り行なわれます。

【日 時】8月7日(日) 午前10時より

【お盆のペット塔婆供養料】4,000円

◆強制ではありませんので、ご供養し

東洋大学教授、エンディングセンター理事

井上 治代 さんに

インタビュー interview

〔副〕今日はインタビューに応じていただきまして誠にありがとうございます。先生の専門分野でありますこれからの「お墓」というものはどのような変遷するとお考えですか？

〔井上〕私の専門は「家族社会学」です。今は「家族」のあり様の変化が社会に大きく影響していると思います。今まで日本仏教は、「先祖」―「家」―「仏教」の三者が既定的な関係にありました。お寺にお墓があり先祖供養をしてきました。その中の「家」が今変わってきている。ですから「先祖供養」も「宗教」も変わる必要があると思います。「先祖供養」であれば、「先祖」という意識が変わってきています。

私は論文では安易に「先祖」という言葉は使いません。自分の身近な死者を「近親死者」といい、「近親死者」の中で系譜的連続意識を抱いている人を「先祖」と区別しています。そうしないと現代社会が読めないのです。

大学でいまの学生に「先祖」の意識調査をしますと、「先祖ってなに？」

って聞かれます。情報としては知っていても、「自分にとって先祖ってなんだろう？」と考えると分からなくなってしまう。身近な「近親死者」は意識しやすのですが、見たことも会ったこともない「先祖」は意識にのほりにくいです。昔のような「先祖意識」というものはなくなってきています。今は、自分と両親そして、祖父母の代までが「先祖」だと思っています。

「家」という観念が崩壊し、自分が知っている範囲の「死者」を祀っていくという考え方です。だから、代々墓がなくなってきた、自分の知っている範囲の個人墓が増えています。

人間は普通、お父さんの血とお母さんの血で生まれてきます。しかし、古来日本は、男系の家制度で社会を作ってきました。ところが、「核家族化」が進みそういう「家制度」「家意識」がなくなると、人間が本来もっている父母の血をいただいて自分があるという意識が目立ってきます。だから今（父母）双方を祀る「双方（両家）墓」が増えています。

今の「核家族」は、父方とも母方とも同居しません。両方を扶養し世話をしようとはします。すでに昭和30年に福岡県のお墓では複数墓（2つ以上の家の合同墓）が増えだしていました。しかし、平成2年以降はそれほど増えなくなりました。それは、この頃から「永代供養墓」というのができ始めたからなんです。なんでも一緒のお墓にしないでいいのではないかという考え方が出てきたからです。

お墓にも「〇〇家」とは書かずに、お経とか「愛」とか「絆」とかを彫り込んでそのあと代が変わっても使えるようなお墓ができました。

しかし、一般の方はお墓は「〇〇家」と書かなくてはいけないと思いついで悩んでいます。

最近では、お墓のリフォームもすすんでいます。たとえば、妻の夫が亡くなったが、娘たちは既に嫁いでいてお墓は必要ない。実家の本家にはお墓があるがしかし、名字は変わっていて本家のお墓に入れるわけにもいかない。このときは、本家のお墓の上を取り替えて「〇〇家」から「お経」に変えてリフォームし、話し合いの上そこに納骨しました。おかげでそのお墓はそのまま大切に引継がれています。

お寺は人間関係を整理してあげて一番いい方法を指導してあげるといいと思います。今の状況からいえば、約50%の方々がそのまま「〇〇家」のお

墓を継ぐことは難しいと思います。民間霊園などはあと数年で無縁墓ばかりになるでしょう。

1950年代の団塊の世代までが多産の時代の人たちです。1947年から1957年の間に子どもが4人から2人に減っています。この兄弟が4人から3人の団塊の世代は、なんとか長男が亡くなっても次男、三男がいてやってこれているけれども、これ以降の世代はお墓を継げない人たちが沢山出てくると思います。

しかし、お墓は継げないけれども、自分の「近親死者」を大切にしたいという気持ちは逆に強まっています。土着の田舎で先祖のお話を聞かされて育ってきている人ではなく、都会にでて家族だけで生活した場合、「先祖」というのは「近親死者」のことしかありません。「核家族」の中には、仏壇もなく、先祖にお供えをあげたり、お花をあげたり、お茶をあげたりという行為が全くありません。人間というのは、毎日の行動が染み付いてきます。毎日、お仏壇にお経をあげる祖父母がいれば先祖は身近になります。お仏壇もお経も聞いたことがなければ、手元供養でいいやという風になります。体験がないということ。違和感がない。「核家族」の方が葬送をするようになると伝統は継承されていかなくなります。この流れは止められない。

でも、ここがお寺の出番です。彼らは救いは求めています。今までのやり方とこれからのやり方のギャップを

救ってあげればいいのです。

これからますます「無縁社会」になっていきます。今日本は65歳以上の夫婦だけの世代が急激に増えていきます。この人たちは将来のシングル予備軍です。人間最後は独居なんです。「核家族」とは一代限りで死ぬことを約束された家族（子どもたちが所帯を持って別所帯になるため）なんです。

今、老人は家族が面倒をみてくれるという時代ではなく、「個」として救える社会でないと日本の社会保障システムは成り立たなくなってきました。私が代表をつとめるエンディングセンターでは、最後に一人になったときに「誰に介護を頼むのか？、誰に葬儀を頼むのか？お墓はどうするか？」を一緒に考えてる手助けをしています。

以前私もぎっくり腰になりました、動けない、同居してないので誰も助けてくれない。という状態になります。ここで必要なのが、「こころのケア」なんです。お墓参りもお骨への話しかけも大事な「こころのケア」なんです。

一人の人はだれにも話しかけない会話をしない生活の中で孤独になり、お位牌やお骨に話しかけるようになります。だから、お墓参りという目的を作り出すようにしてあげる。一緒に食事やおしゃべりの場を提供することがとても大切なんです。だから、これは配

偶者を亡くした会員が一步踏み出せるようにと願って「一歩の会」というのを作っています。このよなうなニーズが合えば人は喜んで集まります。でかける場所が欲しい、おしゃべりする人が欲しい、そしてもしものときは助け合う人が欲しいわけです。

「核家族」の今、孫の赤ちゃんが家にいないわけです。ペットブームというのもそういう意味で孫の代わりなのかも知れません。声の出る機械ペットを持ち歩くお年寄りも見えた事があります。携帯の待ち受け画面もペットの方が多いですね。ですからお寺で保育園などをやっているのはとてもいいですね。老いていくお年寄りは、子どもたちの声やふれあいだけでも元気をもらいます。



(副) よく瑞岩寺の墓地は、購入された方から「子どもたちの声が聞こえて寂しくないから」と言われることがあります。

(井上) 保育園のイベントで双方向で何かできたら楽しいですね。一方的な奉仕では続きませんから、お互いにメリットのある何かですね。

(副) ご近所さんが集まる「△△クラブ」とか都会にはないのですか？

(井上) 都会では、いろんな階層の人たちがいます。もちろん、土着の人で盆踊りで踊りまくる人もいますし、地方からできてきて自分たちの好きな集まりを作る人たちもいます。9割が後者ではないでしょうか。

(副) これからのお寺には何が必要とされるのでしょうか？

(井上) これからのお寺は、「「若い」と「死ぬ」ことへの心構えを教えること」が非常に大切になると思います。お寺で講演会やコンサートが開かれるようになっていきます。しかし、一番必要とされていることは、今すぐに「死」が迫ってきている人の相談にのってあげることです。エンディングセンターでは、娘の結婚が遅くて孫が成人になるまで生きていれるかわからない人には、その方にエンディングノートを書いてもらい、孫が成人したときには晴れ着を買ってあげて欲しいというような、自分の死後でも遺された家族の中にずっと存在していけるというようなことを手伝っています。「死ぬ」ということは、そこからの死後のドラマの幕開けなんです。相続でものは遺されますが、そこには想いが残らないわけなんです。

これから生きていく人と、これから死んでいく人の間には大きな断絶があります。当たり前ですが、自分と親の間には年齢の差がずっと続きます。しかし、親が死に自分がその親と同じ年齢になることができます。そのとき親への想いが強く湧き上がってきます。

高齢者には自分の楽しかったころを思い出すというワークショップもします。自分の生家の見取り図を書いてもらったりしますとても元気になりますね。特別老人ホームなどでそういう

こともしたこともあります。

昔は、お寺が行政のような仕事をしていた。しかし、今お寺は行政ではないようなことをすべきですね。都会では檀家さんがお寺の周りに住んでいませんから「こころのケア」と言ってもほとんどできない。仏教やその他の「いい話し」を聞いて元気になる人がいるわけです。

私は今、韓国仏教を学習することによって日本仏教を再生できると考えています。韓国仏教には檀家制度がありません。でもお寺は繁栄しています。儀礼式がとても多いですね。そして、莊嚴で美しい。また五体倒地という自分が参加する参加型のシーンがとても多いです。樹木葬や自然葬も非常に多い。韓国では今まで儒教式で行われていた葬送が、火葬を取り入れることによって仏教に近くなった。そして位牌供養などが増えています。キリスト教の方も49日供養をします。多文化国家ですね。お百度参りや予習（自分の葬式を生前にすること）法要なども多くあります。日本でも戦時中は自分の葬式を生前にすることは沢山行われました。自分が死後極楽浄土にいけるように生前に功德を積んでおく。檀家制度がなく会員制なので自分がこのお寺を選んだというモチベーションがあります。

お寺の行事に積極的に参加することによって、よい事があるとか、心が落ち着くとか、百回お参りしたから自慢

するのではなくて、それだけやったのだから願いが叶うだろうと。そういう想いが芽生えていく。

檀家制度がいい悪いという話しではなく、その制度は今も機能している部分もありますし、時代とともに機能しなくなっている部分もある。今の世代の人はそこにお墓があるからという理由でやりませんがモチベーションは下がっています。

今の日本のお寺は二重構造になっています。住職という立場と、自分の家族の育成という立場。よい側面もありますが悪い側面もあります。その家族の部分を守ってお寺の門を開こうとしないのが今の日本の仏教の閉塞感なのです。

昔の日本や韓国のお寺には寺男がいました。お寺の雑務は全部やってくれていた。住職はお寺に専念できたんです。家族があってもいいんです。ただ、お寺のシステムとは切り離してあるほうがお寺としては機能しやすいと思います。

人類学では、「社会化」といいます。が幼少期に根付いた文化や生活習慣はなかなか切り離せないものになります。幼児期に仏壇にお参りする祖父母を見ていると、その文化を捨てることに違和感を感じるようになります。しかし、そういう習慣が全くない家庭には違和感がない。

仏壇は家族みんなのものという感覚があります。子どもの頃通信簿や、頂き物はまず仏壇にあげました。そして、引出しには家族みんなの大切なものがしまつてある。

今の学生は高度成長期の親に育てられていて、苦勞をしていない。また、子どもの数が少ないので親がきちんと躡けていない。子どもをかわいがることはしても、要所所で叱るということとをきちんとしていない。

台湾の仏教も面白いです。すごいデラックスな宿泊付きのお寺なんです。スピリチュアルな体験ができるように、日常空間と異なる装置があります。夜のライトアップとか、神秘的な空間になっています。また、韓国の花祭りも壮観です。

お寺がイベントとして一人暮らしのお年寄りのお見合いパーティを開いたり、60歳を超えてよき人にめぐりあうなんてことも増えています。

今、エンディングセンターでは、新鴻の妙光寺のようなお葬式のできる部屋があつて、横に畳の部屋があつて、その建物の横に野菜を作る畑があつて、時にはテンプラにして食べたたり、おしゃべりしたり、亡くなったときにはそこでお葬式をするみたいな、そんな場所を探しています。

食べ物育てるというのも、成長の歓びであり、食べるときには収穫の歓

びがあります。

たとえば、お墓はみなさんの寄り所になっていますけど、お寺というのは建物があります。そして人がいます。人々が集まる場所がある。そして寄付ができる。自分たちの夢が続いて行くという希望がないといけません。

私たちエンディングセンターは、「打ち上げ花火」だと思っています。自然葬、桜葬というものを広め、それが必要とする人が最後のひとりまで看取る世話をするそれが使命だと思っています。

ふるさと村構想というのがあります。今、都会の人たちは畑や田舎に飢えています。東京近郊にそういう自分の行く場所（ふるさと）を作るといと思います。それから、住職の熱意これが一番です。私たちが行きたいと思うことがサポートする一番の根拠ですね。東京の人の感覚の代表だと思っています。

新宿の東長寺さんは、永代供養墓の先駆けですが、千葉でも樹木葬をやっています。スタッフを雇い、システムとして回っています。近所の小学生や東京の大学生が里山再生として期間を決めて手伝いに入っています。

海外を含めいろんなところを観るとヒントがいっぱいあります。これからお寺はものすごくいいと思います。東京でなくなってもものの中に癒される

いいものが沢山ありました。癒される装置をお寺はもとも備えています。

仏像を活用するのいいと思います。一般の私たちは仏像と一対一で対峙するということはありません。そういう時間を提供するか。そして、五体倒地する。身体で感じる、身体を通じて仏を感じる必要があると思います。日本の葬儀・法事では亡き人とは向き合ってもほとけさまと向き合っていない。信仰とはほとけと向き合うことです。

今、仏教界は大きく変わるチャンスが来ていると思います。

樹木葬のいいところは、代々引き継がなくてもいいという子や孫に負担を追わせないということです。自分の死後何回かは来てくれるだろう。でも、子に相談する必要もないし、その後の面倒をお願いすることもないということです。みんな自分のふるさとに帰りたいんですね。

楽しみにしております、そのうちに遊びにいかせていただきます。(終)

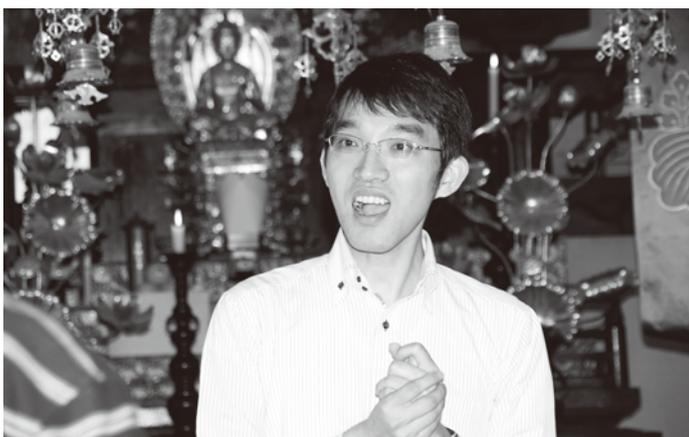


鬼丸昌也講演会『ぼくは13歳、職業兵士』終了

去る、6月4日午後1時より宗教法人 慈眼山 瑞岩寺本堂にて、NGO法人『テラ・ルネッサンス』理事 鬼丸昌也さんをお呼びしてご講演をいただきました。

鬼丸さんは1979年、福岡県生まれ。立命館大学法学部卒。高校在学中にアリヤラトネ博士(スリランカの農村開発指導者)と出会い、『すべての人に未来をつくりだす能力(ちから)がある』と教えられます。

様々なNGOの活動に参加する中で、異なる文化、価値観の対話こそが平和をつくりだす鍵だと気づき、2001年、初めてカンボジアを訪れ、地雷被害の現状を知り、「すべて



公演中の鬼丸さん

の活動はまず『伝える』ことから」と講演活動を始める。同年10月、大学在学中に「全ての生命が安心して生活できる社会の実現」をめざすNGO「テラ・ルネッサンス」設立。カンボジアでの地雷除去支援・義肢装具士の育成、日本国内での平和理解教育、小型武器の不法取引規制に関するキャンペーン、ウガンダやコンゴでの元・子ども兵の社会復帰支援事業を実施。2002年、(社)日本青年会議所人間力大賞受賞。地雷、子ども兵や平和問題を伝える講演活動は年140回以上。国内外を問わず精力的な活動を行っています。

著書には、『ぼくは13歳職業、兵士』、著書『こうして僕は世界を変えるために、一歩を踏み出した』があります。

テラ・ルネッサンス理事鬼丸昌也さん講演会が無事に終了しました。

今年の寺子屋講座で講師をお願いいたしました。本堂にたくさんの聴衆を迎え、鬼丸さんの話しにみな聞き入っていました。私自身もいろいろな気づきをいただきました。

国連の常任理事国のすべてが、アメリカの戦地に兵器の完成品を売りつけている。しかし、日本は、完成品は売ってはいない。部品はあるかもしれないが、それは、日本人として誇るべきことだと、大事にしたいですね。こういう小さい積み重ねが、大震



講演会の様子

災のときに世界中から義援金が集まるんだなあ。そういうリーダー的存在に日本はなるべきだと思います。

多くの人が鬼丸さんのお話しに感動しているのが分かりました。「どんな大きな変化もたった一人のあなたの行動からすべてが始まる」マザーテレサもダイアナ妃も最初はたった一人の想いがスタートでした。本当にそうですね。

葬式や法事だけではなく、地域の中心的存在、頼れるお寺づくりをこれからも続けてまいります。ありがとうございました。

(副)

総持寺、最乗寺、三溪園 感動ツアー無事終了

去る4月9日、10日の両日にて総持寺、最乗寺、三溪園ツアーを無事終了することができました。総持寺は永平寺と並ぶ曹洞宗の本山であり石原裕次郎さんのお墓などがあります。最乗寺は守護道了大薩埵は、修験道の満位の行者として世に知られる。尊者はさきの聖護院門跡覚増法親王につかえ幾多の霊験を現され、大和の金峰山、奈良大峰山、熊野三山に修行。三井寺園城寺勸学の座にあった時、大雄山開創に当り、了庵禪師のもとに参じ、土木の業に従事、約1年にしてこの大事業を完遂した。その力量は1人にして5百人に及び霊験は極めて多い。道了大薩埵は「以後山中にあって大雄山を護り多くの人々を利済する」と五大誓願文を唱えて姿を変え、天地鳴動して山中に身をかくされた。以後諸願成就の道了大薩埵と称され絶大な尊崇をあつ



総持寺山門にて



最乗寺での精進料理



三溪園にて

め、十一面観世音菩薩の御化身であるとの御信仰をいよいよ深くしています。瑞岩寺も数年前に分身をご頂戴し、ご祈禱をしております。
また、三溪園は生糸貿易により財を成した実業家「原三溪」によって、1906年（明治39）5月1日に公開され、175,000㎡に及ぶ園内には京都や鎌倉などから移築された歴史的に価値の高い建造物が巧みに配置されています。
三溪が存命中は、新進芸術家の育成と支援の場ともなり、前田青邨の「御興振り」、横山大観の「柳蔭」、下村観山の「弱法師」など近代日本画を代表する多くの作品が園内で生まれました。当日は、桜が咲きほこり素晴らしい見晴らしでみなさまに飲んでいただきましたと思います。

合掌

樹木葬墓地『木もれ陽（こもれび）』 の開眼供養終了

去る、2月26日午後1時より宗教法人 慈眼山 瑞岩寺境内にて群馬県内としては初の樹木葬墓地『木もれ陽（こもれび）』の開眼供養を参加者多数のもと執り行いました。

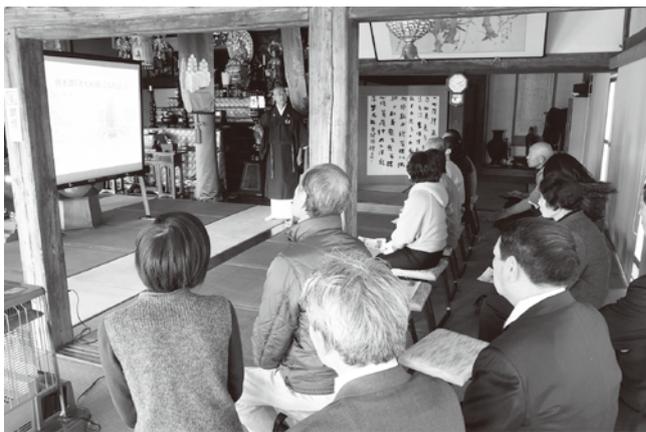
終了後、本堂にて説明会も併せて行いました。樹木葬は、今注目されている自然葬のひとつです。この樹木葬墓地においては、墓石等を建立せず、土に還るよう、お骨をシンボルツリーの周りの芝生の下に納骨いたします。御影石の墓碑板を設置し、刻まれる墓碑銘はご自由に決めていただくことかできます。

近年の家族のありかたの変化によ



開眼供養の様子

り、跡継ぎの心配のない、また家系や宗派にとらわれることのない供養が求められるようになっております。瑞岩寺では、墓を建てたいが、後を委ねる家族や子供がいない方にも安心していただきたいと考え、跡継ぎを必要としない永代供養墓を建立してまいりました。樹木葬墓地につきましても、お墓の承継者がいなくなった後も、基金運用によって供養、管理を続けてまいります。



説明会の様子

寺が仏事を取り戻す理由

あなたと家族と瑞岩寺が協働してつくるお葬式

あなたとあなたの大切な人の「最後の儀式」を

瑞岩寺は責任を持ってサポートします

かつて仏教は、生老病死という

「苦」の荒波を乗り越えるための妙薬として人々の心の支えとなっていました。しかし、「ここらの時代」が叫ばれる今日、その伝統仏教教団は「葬式仏教」と揶揄されています。そして、そのお葬式さえもが、寺から離れたものになっていこうとしています。

瑞岩寺は、そのような現代社会にあつて、お葬式の意味と寺の役割について、あらためて考えていきたいと思っています。

人には必ず死が訪れます。そこには悲しく、苦しく、つらい別れが待っています。それはいのちを持つものが必ず通らねばならない道です。

その死を迎えるまでに、あなたがしなければならぬこと、そして死を迎えたとき家族がすること……訪れる別れをきちんと、納得できるように行うことが大切です。

そういう意味で、別れの儀式であるお葬式は大切です。だからこそ、その大切なお葬式を人任せにするのではなく、あなた自身と家族が主役となるようサポートして行



本堂葬の様子

きたいと、瑞岩寺は考えています。

あなたの人生がしっかりと反映されるお葬式であり、残された人々が「精一杯見送れた」と納得できるお葬式。瑞岩寺はこのことを最優先に考え、あなたらしいお葬式を責任持って行います。

お葬式で大切なのは、お金をかけることではありません。また、形式にこだわったり、慣習に縛られたりする必要もありません。

高価な仏壇や墓石も日本のデフレ経済のなかでは檀信徒の大きな負担になっています。そこで、瑞岩寺では、新規に「葬祭部」を立ち上げました。

納得のいくお葬式は、あなた本人と家族、そして寺の三者が協働意識を持ち、互いに合意形成することで実現するのだと思います。

「死すべきいのち」を持つあなたが、やっておかなければならぬ事は何か、ということについても考えていただきたいと思っています。

「あなたらしい旅立ち」に対して、瑞岩寺は最大限の支援と協力をいたします。

— 頼りになる寺でありたい —

瑞岩寺ができること

おおかたの人生は、生・老・病・死というプロセスをたどります。そして、それらには「苦しみ」が付きます。生苦、老苦、病苦、死苦、、、、

これを仏教では「四苦」と言い、日本仏教は、その時々に応じて、四苦を和らげ、解決することを使命としてきました。しかし、この時代、仏教が四苦と向き合い、それを緩和し、解決する具体的な場面や道筋は、なかなか見えません。

加齢に伴う老苦・病苦の現場は、さまざまな問題を生み出しています。

そして、その先には、誰もが、平等に、死苦に直面するという現実が訪れるのです。人生の最後に訪れる死は、膨大な悲しみや苦しみ、痛みとともにやってきます。そして、それはあなた自身が対面しなければならぬ一人称の死であり、あなた自身の問題となります。しかし、それらへの対応は、なかなかできないのが現状です。

瑞岩寺は、四苦の存在、生苦・老苦、死苦における多様な問題、容易ではない死苦の受容などについて、深い関心を持っています。そしてそのためのシステム作りを少しずつですが整えています。瑞岩寺の檀信徒を中心とした地域の人々を対象に、ひとりひとり

の生老病死に寄り添い、四苦と向き合いながら、生きる方法を探り、実践することです。

そのために人生相談、悩み相談、寺子屋講座、座禅、写経、講演会、観音巡拝、旅行、本山研修、寺子屋ライブ、葬儀・墓石仏壇の請負、などをできるかぎり行っています。是非、なにかお困りのときはお寺にご一報ください。

- 寺院が仏事供養全般を網羅することによって檀信徒の経済的負担を軽減します。
- 寺院の経済的運営に寄与し高額な寄附の要請をしなくても済むようになります。
- 宗教行事は、あくまでも自発的なお布施（浄財）を軸に運営していきます。
- 本堂で葬儀を行なうことで形式にはまらない、個性的で温かな雰囲気の中、コストを抑えた葬儀を提供します。
- 墓石や仏壇を寺院が請け負うことにより同じ予算でより満足度の高い高品質の仏具を提供します。

住職 長谷川昭雄
合掌

住職日記 『3.11!!』



『ゴッターノ』という低い地鳴りと共に鉄筋コンクリートの保育園舎が『ミシッノミシッノ』という今までに聞いた事もない音を発した。寺の灯籠、墓石は崩落し、泣き叫ぶ園児、職員は止まり、テレビもダメ。ラジオからの情報は、東北のすさまじい津波被害と原発の非常事態を伝えていた。

新聞、ネット、YouTubeで壮絶な現地の映像や情報を集めた。肉親を目の前で失った人。幼稚園の帰宅バス内で集まるように亡くなった園児たち。職員の中でも東北の親戚を亡くし早退する者も出た。人ごとではない。連日目頭が熱くなった。

「自分でできること」を考へ、すぐに寺での被災者の受け入れ、義援金箱の設置、社会福祉協議会へのボランティアの申請を行い、同時に被災孤児もお寺で受け入れる用意があることを震災地に伝えた。

卒園式が終了した4月28日から数日間、弟子と息子を連れて南三陸町にボランティアに入った。改めて見る被災地の現場の広大さと波の破壊力に立ちすくんだ。寺の本堂に突き刺さる大型バス。3階建てのマンションの上にバラス良く乗る船。「南三陸駅」とだけ書かれた看板、もうそこに駅も線路も何もなかった。私は戦争を知らないが、「原爆が落ちたような、」という表現しかできない惨状が広がっていた。

これほどの体験をした現地の人は生きていくこと自体が奇跡だと思えるだろう。「有り難い」の反対は「当たり前」。多くの日本人が「当たり前」の今を感謝するようになった気がする。家族や地域の人のつながり、絆を大切にするように思える。世界の震災の1割は日本で起こると言われる。でも、それを毎回この日本は克服してきた。帰りの車の中で息子の背中が少し大きくなったような気がした。

瑞岩寺副住職
長谷川俊道
合掌

お知らせ

◆『あんのん墓苑』

『樹木葬(木もれ陽)』完成

昨年度、墓地の不足と新しい墓地の形を考えて瑞岩寺墓地南側に『あんのん墓苑』が完成しました。この墓地の特徴は左記のとおりです。群馬県では瑞岩寺だけの仕様になります。

【一般墓地区画】

●宗派は一切問いません。

●お寺からの寄付の要求はしません。

【With ペット墓地区画】

●ペットと入れる墓地です。

【永代供養墓地区画】

●先祖供養の継承ができなくなった場合、瑞岩寺が続く限り責任をもつて(永代)供養します。

●生前契約ができます。葬儀の方法や埋葬法に問題意識を持ち、自分の死後は自分で決定したいという方のための墓地です。

●墓地が遠隔地になるので整理したい、分家したのでお墓がない、墓地建設に莫大なお金をかけたくない、身寄りのないお骨を預かってるなど。

●普通の墓地としても使用できる画期的な墓地です。

◆墓参の際のお願い

墓参の際、墓前にお供えのお供物はカラスや犬猫などが食荒らし汚れます。佛様は香りとお気持ちのみ頂きますので、お参りが済みましたらお持帰り下さるようお願い申し上げます。お団子もできましたら下にアルミホイ

を敷いていただと掃除がしやすく衛生的です。また、古い塔婆はゴミ箱に捨ててはいけません。お寺でお炊き上げをしますので寺務所へお持ち下さい。

◇悩み事・困り事の相談

悩み事・困り事の相談は無料です。必ず電話(三七一一二二二)にて予約してお越し下さい。相談の内容が外部に漏洩することはありません。相談時間は午前9時から午後7時まで。夜間・深夜の相談は受けません。

◇厄年厄除、家内安全、商売繁昌、身体健康、学業成就、安産守護、家族祈願、自動車祈願

法要は、毎日十二時よりお参りできます。ご供養、ご祈願、ペット供養、水子供養は、電話、ファックス、電子メールなどでお願ひできます。

すべての人に佛さまの智慧と慈悲を

宗教法人 **慈眼山 瑞岩寺**

群馬県太田市矢田堀町388
TEL:0276-37-1231/FAX: 0276-37-1729
E-mail: info@zuiganji.com
Website: http://www.zuiganji.com
i-mode: http://www.zuiganji.com/i/

◇御意見、御要望はいつでもお知らせ下さい。
◇お身体をお大切に、お健やかにお暮らしく下さいませ。
◆み仏さまの御加護を心からお祈りいたします。 合掌